



鈴木まもる県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

市川市が武蔵野線新駅構想

土地区画整理事業が実現のカギ 県は積極的に支援を

市川市長であった岳父の政治信条を受け継ぎ、地元市川市の都市基盤整備に邁進している鈴木衛県議(2期)は9月県議会で一般質問に立ち、市川市の武蔵野線新駅構想に対する県の協力態勢や市内の道路整備、同市の下水道整備を一気に進捗させる江戸川左岸流域下水道市川幹線建設などについて、県の施策や方針を質問しました。また、江戸川に計画されている(仮称)押切橋について、「市川市の新たなゲートウェイになる」として、その進展状況を探りました。



9月県議会一般質問で登壇した鈴木衛県議

鈴木議員 鉄道網は、道路網とともに市民の日常生活や経済活動を支える重要な都市機能であり、交通の円滑化と道路混雑の解消のためには欠かせない要素である。整備を進めていくことによって、人の往来を活性化にする街づくりが進むものと考えていた。

市川市の北東部地域の街づくりを進める上での東京10号線延伸新線という重要な

な基盤が失われたわけであるので、この北東部においては新線以外の予定されている基盤整備計画の重要性は増している。特に、新線整備に代わる鉄道網の整備として、市川市が検討している武蔵野線の新駅構想には大いに期待している。武蔵野線の市川大野駅と船橋法典駅の間部に新駅を設置し、これを核に

新たな街づくりを土地区画整理事業などにより進めようとするものだが、始めの質問として、県はこの新駅設置に関連した駅前広場や道路等の面整備を行なう土地区画整理事業に対し、技術的、財政的なバックアップをする考えがあるか。

知事 現在、市川市では活力ある街づくりを進めるため、新駅設置に関連して駅周辺の街づくりについて

正義と信じた道を真っ直ぐに

一般質問冒頭から

今年の気候はいつもの年とどこか違う。私は今までに無い季節感に襲われました。日本列島は、猛暑と猛烈な雨に見舞われました。

全国各地に広がった豪雨による水害や土砂災害、突風による被害等、また、埼玉県越谷市、千葉県野田市、そして栃木県矢板市などに、異常気象を見せつけるかのように竜巻が襲ってきました。

以前、私はこの壇上で、自然の驚異を東日本大震災を振り返りながら申しあげたことがあります。どんなに人間が文明を発達させても、自然の前では脆く、瞬時のうちに営々として築いてきたものが破壊されると申し上げました。

自然の次に予測できないのは経済であります。この舵取りを間違えると、国自体の存亡に関わる大きな問題を惹起かねません。閉塞状態にあった日本の経済も、アベノミクスに支えられながら、少しずつ上向き傾向にあるようです。

政治に教科書はありません。変幻自在する人心を冷静に受け止め、正義だと信じた道を真っ直ぐに進むことを心情としております。私は今、千葉県に何が必要か、県民の皆さんは何を望んでいるのかを見極めつつ、議会人としての歩むべき方向を探求していく覚悟です。

検討が進められていると聞いています。街づくりは、市町村が主体となり、地域の実情に応じて進めていくことが重要であると考えています。

今後、県としましては、土地区画整理事業により新たな街づくりが行われるに

要望 鈴木議員 当該地域の駅周辺の市街化調整区域において、鉄道事業者の新駅設置の理解を得るためには、土地区画整理事業というのが前提となると思う。

都市づくり、地域づくりのご意見、ご提言をお寄せください。

鈴木まもる 県議事務所

〒272-0021 市川市八幡3-29-20 秋葉ビル3F
TEL 047-333-6000
FAX 047-322-3232

鈴木まもるホームページ http://www.suzukimamoru.com

HPもご覧下さい。… 検索 ちば自民党 議員リスト 県議会議員 市川市

市街地再開発事業や土地区画整理事業等、開発事業と一体に行われる駅前広場や自由通路整備に国の補助があるように聞いているので、県の積極的なバックアップをお願いしたい。

9月県議会一般質問

市川市特集

木下街道の国道14号交差点 慢性渋滞解消へ右折レーン



木下街道と国道14号線の交差点。
幅に備え、用地が取得されている

鈴木議員 北東部地域の道路のネットワークという観点から、通称「木下街道」についてうかがう。

この道路は、葛南地域と北総地域を結ぶ重要な路線として位置づけられている。立体交差化については、外環受け入れ時の市川市の要

望事項でもあり、市川都市計画道路鬼高若宮線整備事業の一環として拡幅整備することになると聞いている。

朝夕のピーク時には、京成本線の踏切によって円滑な交通の流れが阻害されている状況にある。このため、交通事故の防止、救急活動の円滑化などへの大きな効果が期待できる京成本線の立体化が計画されている。

事業区間の道路用地の取得は、京成本線前後の墓地等を除き、順調に進んでいるようであり、立体交差の整備の大きな障害となるものは無いものと考えられる。

同時に、路線バスの定時運行の妨げにもなっている慢性的な交通渋滞を解消するために京成本線南側に確保されている事業用地の先行活用、具体的には、国道14

号とT字路の交差点内の交通の円滑化を進めるため、取得した用地の中で暫定の右折レーンを設置するなど

北千葉道路市川―鎌ヶ谷区間 早期整備を要望

鈴木議員 北千葉道路は外環道路から成田空港に至る全体約43キロメートルの延長に及ぶものだが、このうち、鎌ヶ谷市から印西市に至る約20キロメートルが現在供用中となっている。

また、印西市から成田市に至る13.5キロメートルについては、成田高速鉄道と一体となって、平成17年度に

着手し、本年5月31日に一部区間を供用するなど、早期供用に向けて事業が進められていると承知している。

残りの市川市から鎌ヶ谷市に至る約10キロメートルの区間については、昭和44年に40メートルの幅で都市計画決定され、現在、千葉

も参加して調整会議を設置し、道路構造を含めた計画について検討していると聞いている。

しかしながら、なかなか事業の進展が見られず、事業化を強く要望している北千葉道路建設促進期成同盟の会長市である鎌ヶ谷市からは、毎年、国、県に早期整備の重要性を強く要望さ

また、市川市から鎌ヶ谷市間約10キロメートルについても、現在、計画の具体化に向け、沿線市などで構成する北千葉道路連絡調整会議において、道路の基本

知事 北千葉道路は成田空港へのアクセス強化、沿線地域の交流、連携の促進に資する延長43キロメートルの大変重要な道路であり、鎌ヶ谷市から成田市間約33キロメートルについて、供用ないし事業を進めています。



県担当者に再質問をする鈴木衛県議

の対応も必要と考えられる。そこでうかがうが、市川都市計画道路鬼高若宮線の進捗状況と今後の見通しはどうか。

県土整備部長 鬼高若宮線につきましては、ボトルネックとなっている踏切の解消を図るため、現在、京成電鉄

本線との立体交差事業を進めているところでございます。用地取得につきましては、現在までに、9割に達したところであり、今年度より用地取得済み箇所を活用しまして、国道14号との交差点におきまして、右折レーンの設置を行うこととして

おります。

今後とも、地元関係者の協力を得ながら、残る用地の取得に努め、事業を推進してまいります。

要望 鈴木議員 慢性的な交通渋滞の解消を図るため、1日も早い右折レーンの設置を要望する。

市川都市計画道路柏井大町線 部分供用も検討

鈴木議員 市川都市計画道路柏井大町線は平成13年に事業認可を取得し、事業に着手してから10年以上が経過しているものの、いまだに道路整備に取り掛かれていない状況にある。

生産緑地の取得が課題となっているようだが既に取

用地取得につきましては、一部難航しているところがございますが、今年度、既に取得した部分を活用しまして、暫定的に歩道を整備し、歩行者の安全を確保してまいりたいと考えております。

今後、部分供用も視野に入れ、集中的な用地の取得に努めるなど、地元市と連携を図りながら、事業を進めてまいります。

県土整備部長 柏井大町線は、県道船橋松戸線の交通渋滞の緩和を図るため、市川市柏井町から船橋市上山町を結ぶ、1.2キロメートルの区間でバイパス整備を進めているところでございます。

得した場所から先行整備を行なったり、暫定利用など地域住民の利便性の向上に資することも可能ではないか。

そこでうかがうが、市川都市計画道路柏井大町線の進捗状況と今後の見通しはどうか。

要望 鈴木議員 北千葉道路は重要な位置づけにあると認識していることか

ら、国の支援を求め、早期の実現に努めるよう要望する。

鈴木まもる県議プロフィール

略 歴

- 昭和26年 市川市若宮生まれ
- 私立市川高校卒業
- 専修大学文学部中退
- 市川市議会議員当選（4期）
- 市川市議会議長
- 千葉県議会議員当選（2期）

現 職

- 県議会 総合企画水道常任委員会委員
- 千葉県 競馬組合議会議長
- 水道事業運営審議会委員



市川市内を流れる大柏川。上流部に第2調節池が計画されている
(右奥は大柏川第1調節池)

大柏川第2調節池

整備遅れは 上下流の 治水に影響

鈴木議員 真間川の改修事業として、浸水被害解消を目的に国分川調節池、春木川、国分川の改修事業などとともに、大柏川第2調節池の整備が計画されている。大柏川の整備については

大柏川第2調節池より下流の南山下橋付近を残してほぼ完了しているが、大柏川第2調節池では、用地取得を重点的に進めているものの、平成24年度末において取得率は77・6%にとどまってい

いると聞いている。

昨今の猛烈な集中豪雨の頻発も鑑みると、取得した用地における部分的な着工も望まれるところであるかどうか。

県土整備部長 大柏川第2調節池は、大柏川の上流域において洪水の調節を行い、中流部及び下流部における洪水被害の軽減を図るための施設であり、平成18年度から用地取得を開始し、鋭意進めているところです。

現在までに、調節池上流部において計画用地を概ね確



10月26日の台風26号で住宅地が水浸しになり、自動車も水没＝市川市北方町4丁目、市川東高校前通り

保できたことから、これを活用して治水効果が早期に発

揮できるよう工事に向けた検討を行っているところです。

今後とも、整備の推進に努めてまいります。

要望 鈴木議員 第2調節池の上流部の鎌ヶ谷市域及び下流部の市川市域は第2調節池の調節流量を前提とした河道断面で計画されており、もし、この第2調節池がなければ、現在より大きな河道断面が必要とされている。

この第2調節池の整備の遅れは、調節池の上流域鎌ヶ谷市と下流域市川市の治水安全度に大きな影響を与える。治水安全度を向上させるため、早期の整備を要望する。



浸水被害を防ぐためにも調整池の完成が待たれる

市川市の下水道整備

国の予算確保へ

県の支援が必要

鈴木議員 都市基盤整備の中で、市川市において普

及が遅れている下水道整備も重要な課題になっている。

わけて建設されており、平成26年度中に工事が完成し、

市川市の北東部地域の汚水を収集する江戸川左岸流域下水道市川幹線について

は、市川市が進めている都市計画道路3・4・18号の整備と合

平成27年度中には供用できると確信している。

市川幹線区域の流域面積は関係市を合計すると約2310ヘクタールであり、うち、市川市域が約1290ヘクタールとなっている。未整備面積については市川市域に限っても優先的に整備すべき市街化区域では約710ヘクタールもある。

近隣市に比べて下水道整備が遅れており、整備を進めるにあたっては、今後の

面整備に要する費用が市川市にとつて大きな負担となることから、国の予算の確実な確保等に対して、県の支援が必要になる。

そこで、市川市の下水道整備を円滑に進めるため、交付金の確実な確保への支援について、県はどのように考えているのか。

都市整備局長 県では、現在、市川幹線の市川市八幡地先約1・1キロメートルの区間の整備を進めており、平成26年度には全線約10・8キロメートルが完成する予定です。

県といたしまして、市川市の下水道の普及促進については、この市川幹線に接続する北東部地域の整備

が必要と考えています。

このため、下水道事業に係る交付金については、これまで、国への要望などを行い、確保に努めてきたところではありますが、今後とも、下水道整備が円滑に進められるよう、社会資本整備総合交付金の確保や、その他の支援制度の活用など、市と十分に連携を図りながら、適切に対応してまいります。

着実な整備を

江戸川第一終末処理場

要望 鈴木議員 平成29年度の一部供用開始を

を目的に建設を進めている江戸川第一終末処理場については、計画どおり完成できるよう着実に施設整備を進めていただきたい。



工事に着手された江戸川第一終末処理場建設地

江戸川に架橋計画の押切橋

市川市の玄関口に

大震災時帰宅困難者にも対応



（仮称）押切橋の架橋が計画されている市川市押切地先の江戸川

このように押切橋は昭和39年に既存の東京都市計画道路補助第143号線を延伸する形で都市計画されたものであり、市川市と東京都心部との円滑な交通処理の観点から、市川市の更なる発展のためのゲートウェイとして重要なものだ。

また、大震災時の江戸川区からの避難経路の確保という面からも重要だ。市川市では、平成22年の国勢調査では約11万人を数える東京に通勤・通学する方々がいる中で、東日本大震災時の例を見るまでも無く、発生が予想される帰宅困難者への対応の点からも、計画されている都県橋の一刻も早い整備を考えていかねばならない。

行徳橋については、千葉県の努力によつて事業化が具体的に見えてきた。押切橋については、東京都では都市計画道路の第3次事業

の主たる会場である東京臨海部へ向かう多くの交通を外環道が受け止め、円滑に処理することといえると思う。その意味で、外環道とその関連する道路の建設が重要課題と思う。市川市と県との「9分類22項目」の中にある（仮称）押切橋は、外環道で受けた交通を東京臨海部へ流す役割を補填するものである。つまり、旧江戸川を渡り、東京都市計画道路補助143号線と市川都市計画道路3・4・25線をつなぎ、環七と湾岸を結ぶ流れができる。

供用後の交通動向も踏まえ、計画の具体化に向け、東京都と十分に協議してまいりたいと考えております。

再質問 鈴木議員 東京都

都側の整備が進んでいる中で、今さら何を協議するのか。県土整備部長 東京都と道路橋梁整備調整会議を通じて、架橋に伴う周辺

道路への影響や、非常に縦断勾配がきついなど道路構造上の課題について、検討を行っているところです。

鈴木議員（仮称）押切橋は東京へのゲートウェイと考えるがこれについての当局の考え方はどうか。

県土整備部長 半島性を有する千葉県にとつて、江戸川などの架橋は、東京都をはじめ、他県との連絡を確保する上で、県のゲート

ウェイとして大変重要であると考えております。

鈴木議員 国土強靱化計画の中で社会資本整備として補助金や交付金を活用するなどの具体的な考えはないのか。

県土整備部長 外環道及びその関連事業は、大変重要であり、補助金や交付金など、国の支援をいただきながら、今後とも着実な推進に努めてまいります。

が賃貸経営を大きく圧迫しつつある。

UR都市機構は当県内に27の高優賃団地を管理し、家賃補助機関

は同じ高優賃であるにも拘わらず20年間

であり、公平性を欠いている。

また、千葉県高優賃制度要綱でうたっている『世代を超え、ふれ合いを大切にす

る高優賃者の居住の用に供する優良な賃貸住宅を整備する』は世代間のコミュニケーションを標榜したと思われるが、千葉県独自の制度である一般住戸4分の1との併存住宅は、当初から一般

住戸居住者と高優賃入居者の生活時間帯の相違に起因する騒音問題などの近隣トラブルが発生、その深刻な事例を聞き及ぶに至り、高優賃者福祉施策として現実的には机上の空論であり、千葉県独自設定に無理があつ

たと思わざるを得ない。そこでうかがうが、現入居者の補助金打ち切りによる退去不安を解消すべく、家賃補助期間を5年間延長して20年にできないか。

都市整備局長 本県では、高優賃向け優良賃貸住宅に

ついて「高優賃者の居住の安定確保に関する法律」に基づき、平成14年度に制度化し、市川市、船橋市、旭市に4団地、72戸の供給計画の認定を行いました。

その中で、期間を15年と定め家賃補助を行っており、平成23年10月の法改正により、高優賃向け優良賃貸住宅制度が、医療・介護と連携した新たな制度に移行されたところです。

家賃補助期間の延長については、制度改正後の高優賃者向け住宅の動向を注視するとともに、財政状況等を考慮する必要があることから、現時点においては、現行の期間を継続してまいりたいと考えております。

要望 鈴木議員 医療・介護と連携した新

たな制度に移行されたとのことだが、制度改正後の高優賃者向け住宅について国の動向などに注視していただくとともに、只今申し上げた現状の高優賃向け住宅のいくつかの課題についても、しっかりと受け止めていただき、今後ますます高齢化が進展する社会の中で、高優賃者が安心して住み続けられる住宅の供給促進に努めていただくよう要望する。

高齢者向け優良賃貸住宅

終の棲家からやむなく転居 家賃補助15年打ち切りで

鈴木議員

平成13年「高齢者の居住安定確保に関する法律（通称・高齢者住まいの法）」の施行により、千葉県においても『世代を超えて

ふれあいを大切にする高齢者の居住の用に供する優良な賃貸住宅を整備す

る』ことを目的として平成14年度にスタートした「千葉県高齢者向け優良賃貸住宅制度（高優賃制度）」は、平成25年8月現在において、県内にモデル事業を含み、

4団地72戸が事業展開している。

高優賃の入居者は入居条件を60歳以上としているため、年金生活者が大半を占め、介護施設への入所や病院への入院等が退去の理由であり、事実上「終の棲家」となっている。

この事業も10年を経過するに至り、家賃補助期間の15年打ち切りによる家賃負担増を原因として劣悪な住環境への転居を余儀なくされてしまうことから、入居されている高齢者が不安になっている事実が浮上している。一方、事業者においては退去による空室の増加